

研究フィールドにおける活動

川端麗子

2023年10月28日・29日に、大阪市生野区における「多文化共生のまちづくり」拠点である「いくのパーク」で「いくの多文化クロッシングフェス 2023/いくの万国夜市第4回」がありました。「いくのパーク」はコリアタウンにほど近い旧御幸森小学校の跡地を活用しています。「IKUNO・多文化ふらっと」と「株式会社 RETOWN」が共同事業体として「いくのパーク」を運営し、生野区とも包括連携協定を結んでいます。

多様な人たちの参加するイベントでは数千人の来場者があり、音楽・ダンスなどのステージ、多国籍の食、ハロウィンなど盛りだくさんでした。

学生さんもボランティアとして活躍してくれました。イベントへの参加を通して、「ソーシャルワーク×まちづくり」を考える機会に繋がったのではないかと思います。

ーボランティアに参加してくれた学生さんたちー



ーイベントの様子ー



■最大の目的（あいことば）

生野区を誰もが暮らしやすい全国 No.1 のグローバルタウンへ

■事業趣旨

一人ひとりの人間として、「ともに暮らす仲間」として尊重し合おう。その人の背景にある国籍・文化・言語などのちがいを認め合い、対等な関係をめざす多文化共生のまちをつくらう。社会がますます多様で複雑になり、変化が加速するなかで、それは簡単なことではない。折り合いをつけるのに、時間がかかるし面倒なことも多い。

でも自分と異なる他者のなかに身を置くと、逆に自分自身への理解が深まり、知らないことを知ろうとする大きなきっかけになる。視野がひろがり、創造的なエネルギーを生み出すことで、豊かでしなやかな強さをもつまちづくりにつながる。自分がその人の立場であれば、どうだろうと想像すること。誰かの感情や経験を分かち合うこと。共感がなにより大切だ。大阪市生野区は、外国籍住民の比率が都市部で日本一のまちだ。区民の5人に1人にあたる外国籍の人々が、世界約60カ国から集まっている。このまちには、在日コリアンの人々とともに、まちの暮らしを支えてきた長い歴史がある。すでに多文化共生に向けた得がたい歴史の財産がある。悠久の歴史と伝統を礎に多文化共生が交差するまち。このまちは可能性の塊だ。「いくの多文化クロッシングフェス」は多様な文化的背景をもつ人々が出会い、子どもから若者、高齢者まで多世代の人々が集まる場だ。このまちの生活の延長線上のイベントだ。生野区がすすめる「やさしい日本語」も使って、すべての人々がそれぞれのペースで交流し、心を通わす空間だ。IKUNO から大阪・日本全国へ、そして世界に発信したい。「誰にとっても心地よいまち、IKUNO」を。

■事業コンセプト

1. 【目的】当事者を中心に、一緒に楽しめるイベントを。
2. 【目的】外国ルーツの人々と地域の人との豊かな出会いと交流の場をつくる。
3. 【目的】誰もが暮らしやすい多文化共生のまちとして生野区をプロモーションする。
4. 【目的】多文化共生のまちづくりの必要性について社会的な共感帯を拡大する。
5. 【目的】参加規模および内容ともに大阪における象徴的な多文化イベントに成長させる。
6. 【作り方】まちぐるみの「つながり」の中で、横断的で、共創的なイベントづくりを。
7. 【作り方】「フェス」感を忘れない。